

なかのSDGsパートナーの取組紹介



1 事業者

(ふりがな) 事業者等名称	(たびやけんたん) 旅屋けんたん
所在地	〒165-0024 東京都中野区松が丘 1-32-8-503
ウェブサイトURL	https://peraichi.com/landing_pages/view/tabiyakenttan/

2 事業概要

中長距離を快適に移動するため、車外へ大きくスライドダウンするシート付車両でシニアの方お一人からご夫婦・少人数グループまでを対象に完全プライベートな外出を提供する。高齢や障害のためにあきらめていたお墓参り、親戚との面会などの外出を実現する。

旅や外出によって得られる主観的幸福感、長寿命や認知機能の維持に関連すると考えられており、「旅行が認知症の予防・抑制に効果的」であるということは、脳科学分野の「生涯健康脳」の研究によって明らかになっている。たとえば「旅行先の文化や歴史を知りたい」といった文化の見聞を旅行の動機とする傾向の高い人ほど「人生で起こる困難な状況に自分で対処できる」という自信を強くもっている傾向があり、頻繁かつ明確な動機を持って旅行に行き、その動機が満たされるほど、主観的幸福感が高くなる可能性が示唆されている。

実際にご利用していただいた方からのアンケート結果では、今後も利用したいという意見ばかりで、希望がかなったという満足感を強く感じている方がほとんどである。日頃の閉塞感やあきらめを打開し、気持ちの面から健康になることで、今後高齢者・障害者が元気に社会参加し続けるために必要なツールと考える。

3 地域課題解決に向けた取組

	SDGs ゴール	地域課題解決に向けた 取組の内容	左記の取組と SDGsとの関係
1		①「高齢化社会」 総務省統計局によると2019年の9月時点で日本の高齢化率(65歳以上の高齢者が人口全体に占める割合)は約28.4%と過去最高となり、2019年時点で日本は高齢化率で世界1位となっている。しかも、2065年には38.4%まで	「持続可能な輸送システムへのアクセスの提供」 2030年までに、脆弱な立場にある人々、女性、子供、障害者及び高齢者のニーズに特に配慮し、公共交通機関の拡大などを通じた交通の安全性改善により、全ての人々に、安全かつ安

	上昇すると予測されている。(国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口[平成 29 年推計]」つまり、超高齢化社会になるにあたり、外出に補助が必要になる絶対数が増加していくことがわかる。そのため、今後高齢者・障害者が元気に社会参加し続けるために必要なツールと考える。 ②「独居老人(高齢者の一人暮らし)」 内閣府によると、65 歳以上の一人暮らし、独居老人は 2015 年(平成 27 年)には男女合計で約 600 万人に達した。この数値は増える傾向にあって、2025 年(令和 7 年)年には全体で約 750 万人に達すると予測されている。独居老人が増えている理由としては、主に「さまざまな理由で頼れる人がいない」「慣れ親しんだ場所から離れたくないという高齢者が多い」といったものになる。そんな一人暮らしの方でも、同じ趣味や目的があれば、健康的で文化的な生活を送る過程で家に居るということ以外の楽しみとして、介助者がいれば本当は外出したいという希望を叶えられると考える。 ③「2025 年問題」 2025 年には人口の約 3 分の 1 が 65 歳以上の高齢者で占められるようになる。その頃、世代別人口の多い「団塊の世代」(1947～1949 年の第一次ベビーブームに生まれた人たち)が 75 歳以上の「後期高齢者」になる。現時点でも介護職員の数不足しているが、2025 年には労働力不足が 38 万人に達すると予想されてい	価で容易に利用できる、持続可能な輸送システムへのアクセスを提供する。 政府の統計によると 2023 年の 9 月時点で日本の高齢化率は約 29.1%、2065 年には 38.4%まで上昇すると予測されている。今後、超高齢化社会になることは目に見えている。高齢者の内、要介護者はおよそ 3 割程度と考えられているため総人口が 1 億 2000 万人とすれば、1080 万人が要介護者と想定されることになる。又、現在、身体障害者は全人口比 2.6%いると考えられており、そのうち 67%が車椅子利用者と言われている。この人数は 210 万人となり、これを加えたおよそ 1300 万人が移動困難な交通弱者と考えられる。このような交通弱者の外出や移動は現在のところ「家族」や「介護支援事業者」等に負うところが大きく、家族の場合には、時間的な負担が大きく利用者が気兼ねをしたり、介護支援事業者を利用の場合は、目的が制限され、自由な外出や移動を妨げたりしているのが現状である。しかしながら、2017 年現在、福祉車両の登録台数は全国で約 22 万台ほどである。この数字は年々増加している。しかし、福祉車両の半分以上が介護支援事業者の所有するものと思われるので、純然たる福祉タクシーは不足している状態と言える。そのうえ、中長距離移動に適した車両の充足割合は全体の 1 割程度である。上記のように交通弱者の要望に答えられる点が、中長距離用の福祉タクシーの存在意義と考える。
--	---	--

		る。また、医療費や社会保障費の負担増大が深刻化することも予測されている。医療費や社会保障費の負担を少しでも増加させない手段として、健康に生活する、その健康な生活のためにどのようなことができるかを考えると方法は多岐にわたるが、外出することで未知の体験をしたり、満足感を得たりすることで、自分の考える笑顔になれる瞬間を多く創り出す方法という点が一助になるのではないかと考える。 ④「無縁社会」 無縁社会（むえんしゃかい）とは、人間関係が希薄になっている状況を言いあらわした言葉で、退職して会社組織とのつながりをなくしたり、家族や地域のつながりも希薄になったりするといった理由で孤立し、最後は孤独死する人が年間 32,000 人もいるという内容。確かに人口の都市集中により、今まで形成されてきた地方の出身地域でのつながりやコミュニティが途切れてしまったということは多いにあり得る。ただこのような人でも再度その地域に足を踏み入れると以前の懐かしさや記憶がよみがえり、つながりをたどりたい、昔と同じような何かを感じたいという人は多いのではないだろうか？そんな希望を叶えることに貢献できると考える。	
--	--	--	--